

大阪市立市岡中学校

部活動に係る活動方針

1、はじめに

子どもたちが、生涯にわたって健康で活力ある生活を送るために、部活動は重要なものです。とりわけ自己の発育・発達にふさわしい部活動を行うことは、心身の健全な発達を促進するのみならず、生涯を通じてスポーツ活動や文化的活動を実践していく上で、とても大きな意義を有しています。

部活動は、学年や学級を離れた集団として、自主的・自発的な活動を展開し、生徒同士が互いに協力し合ったり、自己の責任を果たしたりする等、社会生活を営む上で必要な協調性、責任感を培うとともに、個性の伸長、体力の向上を図る学校教育活動の一環として、その役割には保護者や地域からも大きな期待が寄せられています。

学校教育活動の一環である部活動において、生徒が自ら考え行動できる力を育てること、すなわちプレイヤーズファーストの精神に基づき行われるべきものとの考えから、本市における中学校・高等学校すべての部活動のあり方を示した「大阪市部活動指針～プレイヤーズファースト～」を基に、本校においても現状に応じた活動指針を策定いたしました。健全で充実した部活動が実現されるように学校・生徒・保護者と共に取り組んでまいります。

2、部活動の意義

◎「ヒューマンマインド(人間性・倫理性)の育成」

部活動を通して、個人の自律性に基づく仲間・チームづくりに積極的に取り組む能力を育てる。

◎「ソーシャルマインド(社会性・公共性)の育成」

部活動における奉仕活動や社会貢献活動等、他者を思いやる行動を通して、社会性や公共性を高め、総合的な「人間力」を育てる。

3、部活動の位置づけ

◎「生徒の自主的・自発的な参加により行われる活動である。」

◎「学校教育の一環として、教育課程と関連づけて取り組む。」

4、6つの基本的な考え方に基づいた部活動指導体制の実現に努めます。

① 生徒の自主的・自発的な活動

部活動は、生徒の自主的・自発的な活動(強制されるものではない)であり、生徒にとって達成感や連帯感が得られるなど、活躍の場や居場所となり得る活動である。

② バランスのとれた心身の成長と学校生活

部活動は、将来、生徒たちが社会的に自立していくための力の育成に資するものであり、十分な休養の確保や学業との両立など、バランスのとれた心身の成長と学校生活の実現を図り、学校教育の一環として教育課程と関連づけて取り組む。

③ 生涯にわたって健康で活力ある生活を送るための部活動

生徒の多様なニーズを踏まえ、生涯にわたって健康で活力ある生活を送るために、生徒の可能性を引き出せるような部活動を実践する。

④ 安全・安心な部活動

生徒の体力や技能に応じた活動計画を作成するなど、生徒にとってバランスのとれた生活や成長に配慮し、安全・安心な部活動になるよう努める。

⑤持続可能な運営体制の構築

外部人材(部活動指導員、外部指導員等)以下、指導者)を活用することで、顧問異動に伴う指導者不在のない、持続可能な運営体制を構築する。

⑥体罰・暴力行為、ハラスメント、いじめの排除

顧問(指導者)並びに、生徒間同士において、体罰・暴力行為、あるいは人格を否定するような暴言等によるハラスメントやいじめを認めず、これらを許さない部活動づくりに取り組む。

5、 プレイヤーズファーストの環境整備

部活動は仲間とともに取り組む場であり、各自の良さを認め合う場です。そして生涯を通じてスポーツ活動や文化的活動を実践していくものです。

本校は、勝利至上主義の考え方から結果だけを追い求めるといった指導が行われることのないよう、顧問(指導者)は、長期的な観点に立ち、生徒の意志や成長を最優先に考え、生徒が自ら考え行動できる力を育成するよう努めます。また、すべての生徒に達成感や連帯感を与え、喜びと生きがいをもたらす理想の環境づくりに努めます。

【 顧問(指導者)の役割 】

☆生徒が主人公の部活動 勝利至上主義より生徒第一主義

- 生徒とコミュニケーションを十分に図り、生徒の個性を理解し、生徒が主体的な判断のもと、自主的・自発的に活動できるよう指導に努める。
- 生徒の人格を尊重し、能力や適性、興味・関心に対応した柔軟な部活動の運営に努める。
- 生徒が部活動にのみ時間を使うのではなく、学業や地域活動への参加など、総合的な「人間力」の育成と「自己実現」の支援に努める。
- 活動計画・活動内容について保護者に周知して理解を得るよう努める。

☆長期的な観点に立ち、科学的根拠に基づいた部活動

- 生徒の多様なキャリアや志向等を念頭に、将来、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を育成するよう努める。
- 短期的な結果を追うのではなく、生徒の長期的なスポーツ活動や文化活動を見据えた部活動指導を行う。
- 生徒の可能性を引き出すとともに、健康・安全の確保やスポーツ障がい・外傷の予防に留意した活動を行う。

【 適切な休養日等の設定 】

☆基準設定の趣旨

部活動における休養日及び活動時間について、成長期にある生徒が、学校生活と食事、休養及び睡眠のバランスのとれた生活を送ることができるよう、以下に示す基準を設定します。

しかし、各運動種目、各文化活動の特性による有効な休養日設定の在り方、また各部における公式大会の開催期日、日程等の違いから、各部顧問(指導者)の判断によって年間、学期、月単位でのメリハリのある取得も考えていきます。ただし、すべての部活動において、年間100日程度の休養日設定を順守します。

(1)学期中は、原則週当たり1～2日以上の休養日を設ける。

(平日は少なくとも1日、土曜日及び日曜日(以下「週末」という。)は少なくとも1日以上を休養日とする。週末に大会やコンクール・発表会への参加等で活動した場合は、休養日を他の日に振り替える。なお、振り替える際には、週間、月間等で活動頻度を確認するなどバランスを考慮する。)

(2)上記(1)の他、休養日として設定していた日に活動が必要となった場合、生徒及び保護者からの理解を得られる範囲で他の日に代わりの休養日を設定する。

(3)長期休業中の休養日の設定は、学期中に準じた扱いを行う。また、生徒が十分な休養を取ることができるとともに、部活動以外にも多様な活動を行うことができるよう、ある程度長期の休養期間(オフシーズン)を設ける。

(例えば、夏季休業中などに連続して一週間程度の休養期間を設ける等)

(4)1日の活動時間は、長くとも平日では2時間程度、学校の休業日(学期中の週末を含む)は3～4時間程度とし、できるだけ短時間に、合理的でかつ効率的・効果的な活動を行う。なお、活動時間には準備、片付けや移動の時間は含まないが、安全に留意し短時間でできるように工夫する。

(ただし、公式大会や複数での練習試合、合同練習会、遠征試合等、これにあたらぬ場合もあるが、その際は必ず保護者に事前連絡する。)

(5)夏季休業中における運動場、空調のきいていない施設での活動は、原則11時から14時までの活動は控えるようにする。

※公式大会とは、運動部においては中学校体育連盟また、競技団体主催のもの。文化部においては、各種関係団体のコンクール、展示会等をさします。

【 保護者もプレイヤーズファースト 】

☆「保護者は生徒にとって一番のサポーターであり、学校にとっても一番のサポーターです。」

○生徒自らの活動である部活動の本質をふまえ、保護者のみなさんにもプレイヤーズファーストの部活動を理解し、生徒の自主的・自発的な活動を見守っていただくことが大切です。顧問(指導者)とともに生徒を支援していく体制づくりへのご協力をお願いします。

○保護者のみなさんにも活動方針や活動内容について十分にご理解いただき、大会・コンクール・発表会等では活動を通して顧問(指導者)とともに生徒一人ひとりが成長できるよう、ご協力をお願いします。

○保護者のみなさんには、生徒の毎日の生活に関心を持ち、規則正しい生活習慣や学習習慣を身につけさせることが求められています。また、栄養のバランスのとれた食事や十分な睡眠時間など体調管理にもご留意ください。